格のファイトマネー、ＥＳＰＮプラスによる全米中継、聖地でメインを張る、など希有（けう）なこと」とうなった。

井上が契約する業界最大手のプロモート会社「トップランク」の熱の入り方に、小泉氏は「〝モンスター到来〟などとここまで力を入れて宣伝するのは珍しい」と目を見張っている。

ボブ・アラムＣＥＯのもと、かつてリングマガジンで「パウンド・フォー・パウンド」（全階級を通じた最強ランク）２位になったことで話題性も広がった。

「全米のファンも、井上がどれくらいすごいのか注目している。井上は日本人史上最高の一人でしょう」と小泉氏。勝てば、報酬も倍々ゲームになるのは必須。井上はアメリカンドームを体現しようとしている。

ーズをとる井上尚弥【上】至近距る井上【左】とジェーソン・モロニク社提供、ゲッティ＝共同）

上勝利に1・08倍（モロニーは7倍、30日現在）をつけるなど各ブックメーカーは王者有利を予想。この日の検診ではともに身長5・5ｲﾝﾁ（約167ｾﾝﾁ）もリーチはモロニー165・1ｾﾝﾁに対し、井上は171・5ｾﾝﾁ。数字も後押しする。

昼と夜ステーキ

ラスベガス初陣をメインイベンターとして務めることにもプレない。大橋会長は「尚弥は緊張しているでもなく、興奮しているでもなく、木鶏のよう」。木彫りの鶏のように全く動じない「最強」を示す言葉を使い、泰然自若とした態度に勝利を確信する。井上はホテルへ戻る際、フラペチーノをおいしそうに飲みながら部屋へ戻ったという。その後、ステーキとご飯を笑顔で平らげ、米スポーツ専門放送局ＥＳＰＮのインタビュー後の夕食では、デリバリーで再びステーキを食べた。試合前日でも、いつもと変わらない生活だ。

「期待やプレッシャーを力に変えて闘う」と井上。計量4時間前にはＳＮＳで「何回経験してもこの時間は堪（たま）らんよね」と緊張の一瞬さえ、楽しみに変えている。夜には渡米3度目のＰＣＲ検査を受け、ＳＮＳで「それではまた明日!!」とファンに呼びかけた。笑顔が浮かぶよう。これこそが井上の強さだ。

（谷口　隆俊）

村田戦担当ベテラン裁く

○…試合を裁くのは、ベテランレフェリーのケニー・ベイレス氏（70）。15年のメイウェザーＶＳパッキャオ戦を始めビッグマッチを担当。17年に村田諒太（帝拳）がＷＢＡ世界ミドル級王座を獲得した際も務めた。ジャッジはパトリシア・モース・ジャルマン、マックス・デ・ルーサ、ティム・チーサム（いずれも米国）の3氏。

中谷世界戦へ「集中できた」

プロボクシングＷＢＯ世界フライ級王座決定戦（6日、東京・後楽園ホール＝報知新聞社後援）に臨む前日本フライ級王者で同級3位の中谷潤人（22）＝Ｍ・Ｔ、写真＝が31日、神奈川・相模原市の所属ジムで、スパーリングを打ち上げた。

新型コロナウイルス感染防止を徹底し、関係者以外をシャットアウトしての8ラウンド。「しっかり動けたし、やれることも集中してできた。いいスパーでした」と、同級1位ジーメル・マグラモ（26）＝フィリピン＝対策に手応えをつかんだ様子だった。

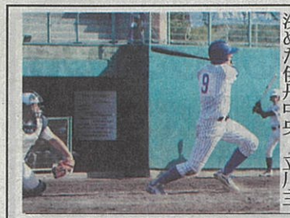
◆ボクシング（31日）

▽東日本新人王準決勝4回戦

佐々木　凌（レパード玉熊）　勇人（協栄新宿）　立樹（レパード玉熊）
青木　修悟（ＳＲＳ）　藤岡　和憲（ＫＧ大和）
神津　浩介（ＲＥＯＳＴ・ＩＢ）　徳臣　竜弥（ＡＮＤＡＮ郡山）
角海老宝石　二瓶　翔（ワールドスポーツ）
富岡　浩介（ＲＥＯＳＴ・ＩＢ）　徳臣　竜弥（ＡＮＤＡＮ郡山）
角海老宝石　二瓶　翔（ワールドスポーツ）
苗村　修悟（ＳＲＳ）　斎藤　哲平（Ｍ・Ｔ）
青木　勇人（協栄新宿）　藤岡　和憲（ＫＧ大和）
三原　陽太（三迫）　高橋　秀樹（分倍河原）
佐藤　陽太（花形）　丸岡　宣男（高崎）
斎藤　哲平（Ｍ・Ｔ）　吉岡　新（マナベ）
柿元　蓮（ワタナベ）　森朝　登（ワールドスポーツ）

大阪都島 堺中央 決勝決めた 伊丹中央 大阪柴島

▼▼２点差で激戦を制し、ホッとした表情で引き上げる大阪都島ナイン



◇中学生の部【準決勝】
伊丹中央ボーイズ（兵庫県）　010 032 039
播磨ボーイズ（兵庫県）　101 010 03Ｘ
【伊】左、浅野・徳田
【播】野藤・新藤原
■松林（伊）飯塚（播）■松林、森田、嶋田、立川（伊）古川（播）

鮮やかに逆転リベンジ成功

負ける訳にはいかなかった。終盤に打線がつながり、見事に逆転勝ちを決めた伊丹中央・立川主将は「播磨に勝てめっちゃうれしい。最後は押せ押せで、みんなでひとつになれた」と満面の笑みを見せた。

1点を追う5回1死一、三塁で太田が「サインが出ると思ったので、準備はしていた」と投前にスクイズ。同点に追いつくと、その後、ナインのバットから次々と快音が響いた。続く松林が「感触はよかった。投手を楽にさせたかった」と適時三塁打、森田も適時二塁打を放ち、この回一気に7回に適時二塁打を放った伊丹中央・立川主将はベンチに歓喜のポーズ

将は「播磨に勝てめっちゃうれしい。最後は押せ押せで、みんなでひとつになれた」と満面の笑みを見せた。

1点を追う5回1死一、三塁で太田が「サインが出ると思ったので、準備はしていた」と投前にスクイズ。同点に追いつくと、その後、ナインのバットから次々と快音が響いた。続く松林が「感触はよかった。投手を楽にさせたかった」と適時三塁打、森田も適時二塁打を放ち、この回一気に3安打と打撃が光った松林

出場権を獲得。そのうれしさからか、この日の試合前にはいつものような緊張感がなかった。「相手は播磨やぞ！」。田中監督のゲキで、支部予選準決勝で敗れた悔しさを思い出した選手らは闘志が戻った。

因縁の相手へのリベンジにも成功し、堂々の決勝進出。立川は「相手は強いが、つないでつないで勝ちたい」と宣言。いまだ成長を続けるナインがその目標も実現する。

◇中学生の部【準決勝】
和歌山御坊ボーイズ（和歌山県）　000 201 002
大阪柴島ボーイズ（大阪北）　207 00Ｘ 92
（5回コールド）
【和】野田、市木－日下
【大】徳丸－嶋田
■田中、徳丸、河合（大）

3回一挙7点

大阪柴島打線が火を噴いたのは、2点リードの3回だ。1死一塁から徳丸が中前適時打。さらに西垣も中前タイムリーを放つと、田中主将も続いた。そしてトドメは河合。1死満塁から「気持ち打った。打った瞬間、越えると思った」と右越えへ3点三塁打。この回打者11人の猛攻で一挙7点を奪い、試合を決めた。

主砲・徳丸は2安打2打点。投げても先発で5回2安打2失点と投打でチームを引っ張り「次は全打席で安打し、1本は本塁打を打ちたい」とさらに自信を深めた様子だ

▲▲投打で勝利に貢献した大阪柴島・徳丸【右】3回に中前適時打を放つ田中主将

堺中央・村上【右】は2回、リードを5点に広げる豪快なランニング本塁打を放った

◇中学生の部【準決勝】
堺中央ボーイズ（大阪南）　321 100 000
大阪都島ボーイズ（大阪北）　000 103 47
茨木ナニワボーイズ（大阪北）
【堺】長村、吉田－水侍
【茨】松井、村上－青岡、山口
■村上（堺）諏訪、長村（堺）
■高曽（堺）村上（茨）

村上豪快弾!!

目が覚めるような一撃だった。堺中央・村上は2回2死一塁、豪快にバットを振り抜いた。「甘い球だったから思い切りたたいた。（一塁走者の水侍）孝太を絶対にかえしたかった」。左中間を深々と破るランニング本塁打。リードを5点に広げる一発で、試合の流れを完全に引き寄せた。

身長176ｾﾝﾁはチーム一の長身。毎日、全神経を集中して10スイングの素振りを行う。「間違ったフォームで100回スイングしても意味がない。1つのスイングに30秒かけて正しいフォームを身につけようとしている」。工夫しながら技術向上に取り組んでいる。

投げては先発・長村が5回1失点の力投。「コントロールが悪くて球数が多くなった」と背番号10は謙遜したが、堂々の投球だった。投打がかみ合った勢いで、一気に栄冠をつかみ取る。

2回1死二、三塁で4番・中橋が中前2点適時打

の顔に、安どの笑みが広がった。

鮮やかな先制攻撃だった。初回だ。宮崎が右前打で出塁し盗塁にも成功。続く川村の中前適時打で、あっさり先制した。高田の右越え適時三塁打で1点を加えると、中橋も左翼手のグラブをはじく適時打。さらには、森重も右中間に3点二塁打を放った。この日3打数3安打4打点と大当たりだった7番打者は「打撃はずっと好調。今日も打てるうれしかった」と笑った。

終わってみれば、16安打10得点。その猛打はモットーの「センター返し」から生まれた。大会前、攻撃力アップを目指しチームで意識を統一。4打数4安打と大活躍した宮崎も「自分もチームもセンター中心に打ち返す打撃ができている」と手応えを感じている。

最後はヒヤヒヤしたが、高田主将は「ミスがあっても全員でカバーできた。頑張って優勝したい」と前向き。強力打線を擁すナインが目指す先には、優勝の2文字しかない。

激戦逃げ切る16安打で10点

4回に二塁打を放った大淀・近江は相手守備の連携が乱れる間に本塁生還

何とか逃げ切った。最後の打者を遊飛に打ち取った大阪都島・中橋は、クールな表情でマウンドを駆け降りた。直後に時間切れゲームセット。2点差で激戦を制したナイン

◇小学生の部【準決勝】
大阪都島ボーイズ（大阪北）　530 200 810
大淀ボーイズ（大阪北）　302 120 000
【都】川村、中橋－高田、川村
【淀】渡辺、神谷－近江
■高田（都）神谷、植木（淀）■森重、川村、長崎（都）近江（淀）

5回1失点と力投した先発・長村

報知新聞社後援
第50回 ゼット杯日本少年野球関西秋季大会
（10月31日・浜寺公園球場ほか）

小学生、中学生とも準決勝が行われ、小学生の大淀ボーイズ（ともに大阪北支部）との激戦を制し決勝進出を決めた。堺中央ボーイズ（大阪阪南支部）は村上のランニング本塁打などで完勝。中学生の部では、伊丹中央ボーイズが兵庫県支部予選で敗れた播磨ボーイズにリベンジし決勝へ。大阪柴島ボーイズ（大阪北支部）は5回コールド勝ちした。決勝は、中学生の部ともきょう1日に久宝寺球場で行われる。

【主催】（公財）日本少年野球連盟、報知新聞社
【主管】（公財）日本少年野球連盟関西ブロック
【後援】大阪府、大阪府教育委員会、兵庫県、兵庫県教育委員会、淡路市、淡路市教育委員会、読売新聞社、読売テレビ
【特別協賛】ゼット株式会社

レイアウト　浜田茂雄